東大和市 リアルタイム事務事業評価調書①

【 まち・ひと・しごと創生

事業】

記入日 令和 5 年 10 月 16 日

基本情報(A・B)

A) 施策、根拠法令等

担当部署	部	企画財政部	課	総合戦略推進担当	係	政策推進担当	
基本施策	まち・ひと・しごと創生事業については、地方版総合戦略が第五次基本計画に包含されているため、全体の施策に関連しており複数の個別事業を含んだものとなっている。					事業種別	市単独業務
分野別施策						継続・新規	継続して実施している事業
展開方向	☐	☐	企画政策課における予算額	予 算 科 目	会計	一般会計	
根拠法令等(あれば)	まち・ひと・しごと創生法			款	2	総務費	
				項	1	総務管理費	
				目	7	企画費	
				事業番号	3		

B) 事業内容・対象

市の魅力向上に寄与する事業	☐	人口減少抑制に寄与する事業	☐
事業概要(何をやる事業か)	第五次基本計画に定める急速に進展している少子高齢化や人口減少に対応し、活力あるまち、持続可能なまちを目指して、人口減少の抑制や地域の活性化を推進するために、各事業を実施している。		
事業の対象	市外の方、東大和市民		

現年度(令和5年度)に実施中の事業について(C・D・E・F)

C) 目標・目指す状態

※市民意識調査の結果を目標値にはできません(施策評価の目標であるため)。

※「〇〇意識を高める」「理解を深める」等といった成果が測れないものは不可とします。必ず効果が数値化できる目標にしてください。

	目標・目指す状態	単位	目標数値
①	合計特殊出生率(参考: R3実績 1.18)		1.57
②	65歳健康寿命(参考: R2実績 男性83.47歳、女性86.73歳)	歳	男性83.99歳 女性87.19歳
③	社会増減数(転入-転出)(参考: R3実績 304人、R4実績 85人)	人	300人超過
④	東大和市の滞在人口のうち市外の方の人数(R3実績 11,612人)	人	11,612人以上

D) 前年度と変更した点がありますか?

※事業の実施を経て、見直し、解決すべきだと考えたことを元に変更した点

☒	有	変更した点→	令和4年度の多摩モノレール車両へのPR広告の掲出(6か月間)から、令和5年度は全国の産婦人科やアカチャンホンポ等に8万部配置されるフリーペーパーに市のPR広告を掲載
☐	無	無の理由→	

E) 見直し状況

※変更(見直し)については、どの程度進んでいますか

市の認知度の向上、子育て世代へのPRなど、適宜、方法を見直し、実施している。
--

F) 令和5年度中の進捗状況 ※企画政策課事業分(予定含む)

①	4月~5月	総合戦略アクションプラン及びブランド・プロモーションアクションプランの実施目標について、令和4年度の取組状況を各課調査
②	7月~	令和4年度の取組状況について、庁内の課長会、部長会を経て、まち・ひと・しごと創生会議(外部有識者)で意見聴取
③	4月~	「出張!なんでも鑑定団in東大和」の開催準備
④	4月~	企業版ふるさと納税の周知、寄附の受入れ
⑤	4月~	市公式ホームページ、市公式SNS、インスタグラム「キタマガ」などによる情報発信
⑥	4月~	牧瀬氏とアドバイザー契約
⑦	5月	うまかんべ〜祭での企画政策課ブースの開設(市の魅力発信)
⑧	7月	情報発信力向上研修(外部講師)
⑨	7月~	デジタル田園都市国家構想交付金変更申請手続
⑩	8月	若手職員(35歳以下)を対象とした市のことを理解するためのワークショップ(牧瀬氏講師)
⑪	10月	係長職を対象としたブランド・プロモーションに関する研修(牧瀬氏講師)
⑫	10月	フリーペーパーに市のPR広告を掲載
⑬	11月	インターネット検索サイト等を活用した市PR広告の実施

東大和市 リアルタイム事務事業評価調書②

【 まち・ひと・しごと創生 事業】 記入日 令和 6 年 3 月 19 日

実績報告・事業分析

A) リアタイ評価会議での意見・助言等

- ① 「デジタル田園都市国家構想」に合わせて横断的かつ効率的に実施する方法があるのではないか。
- ② 目標として掲げている「65歳の健康寿命」「出生率」であるが、目的とリンクする他課の取組が記載されていない。
→まち・ひと・しごと創生事業の横のつながりが調書からは見えてこない。
- ③ まち・ひと・しごと創生事業は、一段上の事業構想やプロジェクトであり、事務事業評価対象としては適当ではない。
- ④
- ⑤

B) 上記意見を受けて、対応したもの 及び 参考としたもの

- ①について、まち・ひと・しごと創生事業については、第五次基本計画に包含された地方版総合戦略に基づくとともに、その実行計画を定めて取組を進めることにしている。令和4年12月に国がデジタル田園都市国家構想総合戦略を策定したことから、令和5年度にその趣旨を反映した総合戦略アクションプランとブランド・プロモーションアクションプランを策定した。それらのアクションプランでは、第五次基本計画の重要施策1から3までの施策を、基本目標とその施策に位置付け、庁内横断的に取組を進めている。
- ②について、評価調書のFの欄の①の「4月～5月 総合戦略アクションプラン及びブランド・プロモーションアクションプランの実施目標について、令和4年度の取組状況を各課調査」により、取組そのものは庁内の関係課が実施しているため、その取組状況について取りまとめをしている。その内容は、評価調書のFの欄の②の「7月～ 令和4年度の取組状況について、庁内の課長会、部長会を経て」とあるように、課長会や部長会に提案して組織横断的に意見を聴取している。
- ③について、ご意見を踏まえ、事務事業評価の対象としての考え方について整理する必要があると考える。

C) R5年度の実績（事業の実績を示す数値 又は 事業の目標としたものの結果） ※市民意識調査の結果は不可とします。

実績の説明	単位	目標値	R5実績値	【参考】R4実績値
① 合計特殊出生率		1.57	1.21 (R4)	1.18 (R3)
② 65歳健康寿命		男性83.99歳 女性87.19歳	男性83.47歳 女性86.62歳 (R3)	男性83.47歳 女性86.73歳 (R2)
③ 社会増減数（転入-転出）		300人超過	614人 (R5)	85人 (R4)
④ 東大和市の滞在人口のうち市外の方の人数		11,612人以上	11,524人 (R4)	11,612人 (R3)

数値として出せる実績が得られなかった（下記にその理由を記載してください）

数値結果がない理由	
R5実績は去年と比べて	☐ 向上した ☐ 例年通り ☐ 低下した ☒ その他
左記とした理由 又は 分析等（向上・低下した要因等）： 合計特殊出生率は、前年実績に比べて上昇したが目標値よりも下回っている。65歳健康寿命及び滞在人口は、目標値よりも下回った。社会増減は、目標値を大きく上回った。	

D) 分析（令和5年度の実績を踏まえて）

↓該当する1つに○をつけてください↓

①この事業の有効性は 費用対効果（コスパ）、執行体制の状況、手法として最適か 等	高かった	☐ 普通だった	低かった
---	------	-----------------------------	------

①の理由：目指す目標値については、一つの事業で達成できるものではなく、市の横断的な取組の結果で達成できるものと考えている。少子高齢化が進展している中で、人口減少の抑制と地域の活性化については、市の大きな課題であることから、その課題の克服に向けて、継続的に取り組む必要があると考える。

②この事業に対する市民のニーズ、反応は 市民の反応等を踏まえて回答してください。	高かった (良かった)	☐ 普通であった	低かった
---	----------------	------------------------------	------

②の説明：個別の事業のことではないまち・ひと・しごと創生事業の市民の反応等を把握することは、難しいと考えている。ただし、一例であるが、市民意識調査に東大和市への愛着度の設問があり、「愛着を感じている」と「どちらかといえば愛着を感じている」を合わせた「愛着を感じている」は、78.4%（令和5年11月報告書）となっている。

③この事業における 市民協働・共創 の余地は ※「市民協働」及び「共創」については別紙1をご確認ください。	多くの余地がある	☐ 余地がある	☐ 余地がない
③の説明：まち・ひと・しごと創生事業における個別の取組については、市民協働や共創を活用することにより、市以外の関係者を巻き込んだ取組により地域の活性化が期待できる。			
④この事業が今後市の類似事業と 統合・再構築 できるか ※市で行っている類似の事業がある場合のみ回答	☐ 可能である	☐ 検討の余地がある	☐ 不可能である
④の説明：			
⑤ 近隣市の類似事業と比較して充実 している事業か ※近隣市に類似する事業がある場合のみ回答	☐ 他市より充実している	☐ 他市と同程度	☐ 他市の方が充実
⑤の説明：まち・ひと・しごと創生事業については、牧瀬アドバイザーの支援、まち・ひと・しごと創生会議（外部有識者会議）の活用などを行っており、その点では他市よりも充実していると考えているが、各施策の取組については、それぞれの市の特色によって一概には比較できないと考える。			
⑥ 東大和市独自の個性 を出している事業か	☐ 市の特長、個性を出せる事業である	☐ 他市と同程度個性はない	☐
⑥の説明：牧瀬アドバイザーの支援については、東大和市の独自色と言える。また、人口減少の抑制及び地域の活性化の点から、関係課で各取組を実施しているところであるが、関係課で工夫をして、東大和市独自の個性を出している取組がある。（例：オンライン英会話レッスン、AI型教材の活用、フィールドアスレチックのローラーライダー設置の計画など）			

東大和市 リアルタイム事務事業評価調書③

【 まち・ひと・しごと創生

事業】

記入日 令和 6 年 3 月 19 日

反省・今後の方向性

A) 来年度以降の課題や見直すべき点		※事業の実施を経て、反省・見直すべきだと思ったことを記入してください。
①	まち・ひと・しごと創生事業のうち、庁内部長会や庁内課長会の会議の運営等については、政策実現により重点を置いた情報提供や意見交換の場として活用することができると思う。	
②		
③		
④		
⑤		

B) 来年（令和6年度）の取組予定		※事務予定または、改善事項を記入してください。
①	総合戦略アクションプラン（令和5年度～令和9年度）の取組を推進する。	
②	ブランド・プロモーションアクションプラン（令和5年度～令和9年度）の取組を推進する。	
③	総合戦略アクションプラン及びブランド・プロモーションアクションプランの実施目標について、令和5年度の取組状況を各課調査し、外部有識者会議の委員の意見を付し、公表する。	
④	広報プロモーション課が創設され、ブランド・プロモーション関係の取組が移管する。一方、企画政策課では、まち・ひと・しごと創生会議などの会議の運営や牧瀬アドバイザーの委託などを所掌することになる。	
⑤	令和5年度におけるデジタル田園都市国家構想交付金及び企業版ふるさと納税による寄附の活用状況に対して、外部有識者会議の委員から意見を聴取する。	

C) 上記Bの取組にあたって必要な調整・準備事務等		※記入日時時点で必要と考えられる準備事務について記入。
①	総合戦略アクションプラン（令和5年度～令和9年度）及びブランド・プロモーションアクションプラン（令和5年度～令和9年度）の庁内周知	
②	令和6年度の会議等のスケジュールの対象者への周知	
③	令和6年度の取組のための市の実施方針の確認（必要に応じて）	
④		
⑤		

事業コスト（6年3月19日時点）

予算科目	款 項 目	2 1 7	事業番号	3	予算名称	まち・ひと・しごと創生事業
------	-------------	-------------	------	---	------	---------------

R5予算額及び決算額

※会計年度任用職員に係る経費（報酬等）は記入不要です。

単位：円

R5予算額		R5決算額(暫定)		【参考】R4決算額	
事業費合計	4,621,000	事業費合計	3,959,583	事業費合計	3,054,098
積算根拠		積算根拠		積算根拠	
7 報償費	521,000	7 報償費	201,000	7 報償費	270,500
10 需用費	309,000	10 需用費	302,954	10 需用費	354,698
11 役務費	859,000	11 役務費	843,728	11 役務費	277,400
12 委託費	2,484,000	12 委託費	2,209,351	12 委託費	2,151,500
13 使用料及び賃借料	448,000	13 使用料及び賃借料	402,550		
財源内訳		財源内訳		財源内訳	
一般	4,621,000	一般	1,516,311	一般	2,478,098
国		国		国	
都		都		都	576,000
市債		市債		市債	
その他		その他	2,443,272	その他	